

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200362		
法人名	社会福祉法人 唐津福祉会		
事業所名	岬荘 グループホーム		
所在地	佐賀県唐津市肥前町鶴巻106番地11		
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年12月16日	外部評価確定日	平成28年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>岬荘グループホームは、海と山に囲まれた風光明媚な場所に建っています。介護理念である『笑顔・安らぎ・心のつながり』をテーマに、介護方針として、家族や地域との結びつきを大切に、個人を尊重し、笑顔と温もりに溢れ、家庭的で安らぎのある生活を送って頂ける様支援しています。毎月の状況報告や隔月発行の岬荘グループホームたよりの送付を行う事で、ご家族には大変喜んで頂いています。入居者の皆さんには、日中はリビングにて自分で出来る事を手伝って頂いたり、レクリエーションに参加されたりと元気に過ごされています。定期行事の花見、ドライブ他天気の良い日には近所に散策に出かけ、近所のかたとの触れ合いの機会を援助しています。岬荘グループホームで1日でも元気に笑顔で過ごして頂きたいと思っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>入り江に面して建つ事業所では、窓から海の青さや潮の流れが目に入り、利用者にとっては昔から見慣れた光景の中で、職員が笑顔で寄り添い、穏やかな生活ができています。食事の準備は、できる事は職員と一緒にしていただいたり、味を見ていただいたりしながら、家庭的な雰囲気大切にしている。併設の特別養護老人ホームや通所サービスとは、それぞれ祭りや行事、日々のケアを通して協力関係が築かれている。敷地内は広く、静かな漁村の雰囲気、周辺の道路は桜並木が続き、春には見事な桜が咲き、利用者の花見や散歩コースになっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔・安らぎ・心のつながり』の介護理念を元に、介護方針として個人の尊重、自立支援、笑顔と温もりを大切に、家族、地域との関係を築きながら家庭的な雰囲気テーマに支援する為朝礼時介護理念を唱和している。	開所時に作成された理念は、日々のケアの中で感じたことや想いから見直しが行われ、また地域に開かれた事業所を目指すため「笑顔・やすらぎ・心のつながり」に変更された。毎朝の唱和はもとより、リビングの目に付く場所に掲示している。職員は利用者が家庭的な雰囲気の中で穏やかに笑顔で過ごしていただけるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の特養でのカラオケ、舞踊、夏まつり等に参加し、交流を図っている。天気の良い日には近所へ散策に出かけ、いりこ製造工場の見学を行った。産業文化祭に来年の干支『さる』の貼り絵を入居者、職員で作成し出品。見学に出かける事で地域との交流を図っている。	地区の清掃などに参加はしていないが、隣接する同法人施設の合同の夏祭りには、地域の集落放送で参加を募る一斉放送をしていただき、利用者家族だけでなく子ども達も含め多数の参加者があった。また日常的な地域住民の立ち寄りには少ないが、利用者が事業所周辺を散歩する際には大根の差し入れやいりこ製造での試食をさせてもらうなど、地域住民との交流も盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の職員が殆どで、地域でも認知症について尋ねられる事がある。認知症の方の理解や支援の方法等助言したり相談に応じたりしている。入居後の様子を知って頂くことで、在宅時の様に元気で穏やかに暮らされている事を分かって頂けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。開催曜日、時間を固定している事で、委員の出席率も高く、入居状況や生活状況、行事報告等を行い質問、疑問に応じている。意見の内容により改善点等あれば、職員勉強会に諮り検討している。	利用者の家族を始め、地域の役職の方のメンバーで2年間の任期となっている運営推進会議は隣接する同法人施設との合同で行なわれており、日常の取り組み状況の報告がなされ、各委員から質問や意見が出される等有意義な会議となっている。議事録はきちんと記載され、閲覧できるようホームの玄関に備えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問や疑問等あれば、その都度連絡を行い、適切な回答を得ている。サービスの質の向上に繋げていけるような協力を得ている。	行政の担当課とは日頃から緊密な関係にあり、直接出向いたり、電話で連絡し合う等、情報の交換や課題についての共有が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、精神的な拘束をしないケアを心掛けている。特に言葉の拘束を意識し、強い口調や命令的な言葉になっていないか、身体拘束委員会からアンケートが行われ、自分の介護を振り返り普段から職員間で気を付けている。	言葉の拘束も含め身体拘束のない支援について、研修会を重ねることにより職員の認識も高く、拘束はない。ただし身体のみふらつきがある利用者については転倒防止のためにセンサーマットを設置している。玄関の施錠はなく、利用者は自由に出入りできる環境を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会で、入居者の身体状況や問題点等話し合い状況の把握に努めている。又職員の言動による精神的虐待がないか職員全体で話し合う機会を設けている。委員会による虐待防止の周知、再認識の為のアンケートが実施されている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者1名が成年後見制度を利用されているが、具体的な制度内容を職員全員が勉強し理解する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等説明する際は、内容をわかりやすく、項目別に質問等無いか尋ねながら確認する事で、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が月1回来荘され、利用者の要望や困っている事はないか聞いて頂き報告を受けている。ご家族には面会時やケアプラン会議の際意見や感想をうかがっている。	職員は家族などの面会時は笑顔で接し、何でも言いやすい雰囲気作りに留意している。日頃の様子を伝え、傾聴を行い、家族の思いや意見を受け止めるよう努めている。一つの例として「毎日の勤務者を掲示して欲しい」との要望を受け止め、取り組む等、家族から出された意見は運営に活かしている。玄関には意見箱が設置され、また事業所以外にも相談窓口あることを契約書、重要事項説明書に明記し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者(施設長)は月1回の委員会会議や2か月に1回の運営推進会議によりグループホームの情報を得ている。管理者は業務に入る事で利用者の状況や業務内容を把握している。又普段から職員の意見や要望を聞き、運営に反映する様にしている。	管理者は、毎月1回全員参加で行う勉強会や、日頃のケアを通して、職員の一人ひとりの思いや意見や提案を聞くように努めている。管理者と職員は、意思の疎通も十分にできており、出された意見は運営する法人にも伝えられ、質の高いサービスとなって反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(施設長)は日頃より管理者、職員の意見を聞き気軽に話せる雰囲気作りに努めている。給与や労働時間、やりがいが持てるような環境作りがなされており、各自向上心を持って仕事に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者(施設長)は管理者、職員一人一人の介護状況や力量を把握し、法人内、法人外の研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者(施設長)は管理者、職員が同業者との交流の機会が持てるよう法人内の会議や研修等に参加させ、サービスの質の向上の取り組みと交流の機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた際困り事の内容をよく聞き、実際の居室や施設内を見学して頂き、入居者の日々の様子等を説明している。入居後はゆっくり話したり訴えを聴く事で安心して生活して頂ける様、又信頼関係が築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時はご家族の立場になり傾聴し、不安ごとや要望にも可能な限り対応するよう努めている。入居後間もない場合は、連絡を密に取りながらご家族からの要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時のケアマネと情報交換を行い、いくつかの方向性を説明し、一番良い方法を選んで頂ける様な配慮をしている。サービスの利用が開始されるまでに困りごとはないか、不安や希望はないか、ご家族の話に耳を傾けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の下準備や食器拭き等自分のできる事を各自行ってもらっている。職員より「ありがとうございます、助かります」と伝えることで本人に『役に立ってもらっている』と思ってもらえている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は基本的にご家族にお願いしている。(ご家族で受診が困難な方に関しては職員が協力している)夏祭り、誕生日会、ドライブ、ケアプラン会議等ご家族へ声掛けし、参加の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り馴染みの場所に出かけられる様地域の行事などへの参加に努めている。又併設の特養にて行われているカラオケ、舞踊等に参加し、知人との交流の機会を支援している。	人とのつながりを大切にし、友人、知人など誰でも来やすい雰囲気づくりを心がけている。隣接する施設での行事に参加することで、知人との交流が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調がすぐれない場合を除いて、毎日ホールにて過ごして頂いている。利用者各自の性格や精神状態を把握する事で利用者同士の相性等も考慮		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者がグループホームを去られた後もフォローアップは忘れない様に努めている。本人に会いに行ったり、ご家族の不安や相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中から、本人の思いや希望、意向を汲み取る様、職員一同心掛けている。サービス計画の見直しの時は本人、家族に希望や意見を聞き、サービスの向上に努めている。	利用にあたっての情報だけでなく、日々の関わりの中の言葉やちょっとした表情、仕草で思いや意向を汲み取るよう常に気を配り、困難な場合は本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前や後でも可能であれば自宅を見せてもらったり、ご家族から話を聞く事で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにあった生活を援助出来るよう各個人の出来る事を把握し、援助している。共同生活であることを説明し、全員が同じように出来ない事などを状況によっては説明している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、職員との話し合いは勿論、担当医にも助言をもらっている。3か月に一度モニタリングを行い評価、見直しを行っている。	本人や家族の要望を基に、解決できる具体的な目標が立てられている介護計画である。モニタリングが行われ、評価や見直しも適切に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況の変化は介護日誌や申し送りノートで全職員が情報を共有できるようにしている。月1回の勉強会で気づき、改善点等話し合い実践できる内容は直ぐに反映させ、質の向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームに看護師がいない為日中は併設の特養看護師に協力を依頼している。夜間は主治医へ連絡し指示を受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前生活されていた地域との関係が入居後も継続出来るような環境作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は事業所の協力医療機関に協力を仰ぐ事を説明している。協力医療機関より月2回の往診をして頂き、3名の方は同病院へ家族付添にて受診をされている。緊急時は協力医の往診を受けている。	契約時に事業所の医療体制の説明を行い、入居後は事業所の協力医療機関に依頼している。24時間の対応ができ、月2回の往診は家族にとっても安心で職員にとっても心強い存在である。診療科によっては家族の送迎を基本としているが、緊急時などは職員で対応し、受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師に入居者の既往歴、日頃の状態の情報を連絡している。緊急時や気になる症状等あれば連絡し、状態観察をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はフェースシートなどにて生活状況(身体、精神面)、服薬内容など情報を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の対応について併設の特養との協力体制がある事を説明し、同意を得ている。重度化になられた方に関しては、ご家族とよく話し合い本人にとって1番良いと思われる対応が出来る環境を作る事が出来るよう関係者との話し合いを行っている。	契約時に重度化や終末期の対応についての事業所の方針や体制の説明がなされている。併設特養施設の協力体制に伴い、これまで看取りの経験はない。状況の変化に合わせ、主治医との連携をとり、家族を含めて話し合いを重ねながら、安心した最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に必要な最低限の知識は持っている。又AED、吸引の使用手順については定期的に勉強会を行っている。AED装置の置き場所(特養)を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、避難訓練を併設の特養との合同にて年2回、防災訓練は年1回行っている。又勉強会にて定期的に訓練の手順、連絡体制について確認を行っている。	防災計画に基づいて、隣接する同法人施設との合同で消防署、消防団の立会いで夜間を想定した消防避難訓練が年2回行われている。防災害、原発避難訓練もそれぞれ年1回行われている。職員は消火器の使い方や緊急通報装置の手順も熟知している。事業所内に水の備蓄はあるが、他の備蓄は隣接施設が一括して保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や特徴を理解した上でその人に応じた声かけを行っている。排泄介助においては自尊心を傷つけない配慮しながら支援している。また入浴時も羞恥心に配慮し支援している。	利用者本人の人格を尊重した言葉使いや口調に注意しながら、その人に合った言葉かけになるように努めている。ホーム便りに記載する写真などは、本人や家族にも承諾を得ており、個人情報についても管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの一方的な声掛けだけではなく、本人が選択できるような声掛けを行う様にしている。入浴時の衣類は自分で選んでもらう様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の摂取にかかる時間はその人のペースで食べて頂ける様声かけを行っている。他の事でも自分で出来る事は自分のペースでして頂ける様声掛け支援を行っている。レクリエーションやドライブの参加等本人の希望を優先して援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の整容は勿論、外出日や誕生日会、行事への参加等は特に洋服や身だしなみに気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や食器拭き等出来る方には手伝ってもらっている。時々はおはぎやホットケーキ等おやつと一緒に作り、職員も一緒に食べている。好きなおかずを尋ねたり、季節の野菜を多く使用する等工夫する事で食事が楽しくなる様努めている。	献立は、職員が交代で利用者に食べたい物を尋ねながら週単位で立て調理している。ホーム菜園で採れたイモ類などが食材に使用されている。準備や後片付けは利用者が出来ることを手伝っている。職員全員が、同じテーブルで利用者を見守り介助しながら同じ食事を食べている。行事食や誕生日など利用者が楽しみとなる食事が用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えながら、職員が交代で献立表を作成している。一人ひとりの状態、体重の増減、血液検査の結果に注意しながら食事量を調整している。水分摂取量を考え、一度に多く飲まれない方には回数を多くし、適切な水分摂取量になる様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声掛けし、介助が必要な方にはうがい水(お茶)とガーグルを使用し、毎食後口腔ケアを行っている。舌苔が見られる方は舌ブラシを使用してもらっている。又義歯洗浄剤を定期的に使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	5名の方が布パンツにパッド使用であるが、声かけを行なう事で日中はトイレでの排泄が多く、失禁される回数は少ない。尿意の訴えがない方は排泄パターンを把握し、出来る限り便器内での排泄を促している。	一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、個々に応じた支援を行うことで、日中トイレでの排泄が可能となっている。夜間も排泄チェック表を用いて、時間毎に個別の排泄誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前の配乳に牛乳やヨーグルトを飲んで頂いたり、オリゴ糖の摂取を試みている。水分や野菜を多く摂取してもらえる様な献立や食事摂取の仕方を工夫している。毎日の健康体操やパタカラの発声、歩行訓練等行い体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週4回(月、水、木、土)の入浴日を設けている。本人に声かけし、納得されてから入浴して頂いている。嫌がられた時は次回に入浴して頂く等本人の意向に添って支援している。必要に応じ、清拭や足浴を行っている。	入浴日は基本的に定められている。拒まれる方には無理強いせず、日を改めたりして対応し、本人の意向に沿って支援している。脱衣所の温度管理も適切に行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく一人ひとりのペースに合わせて休息や睡眠をとって頂ける様援助している。昼夜逆転されない様日中はなるべく活動的に過ごして頂くため、レクリエーション、軽体操、カラオケ等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれ個人別にお薬ノートを作成し管理している。薬の説明書にて薬の内容、量を把握出来る様努めている。薬の内容が変更になった場合は周知を徹底し、服薬後の状態観察を行い、主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や性格等を把握し得意分野を継続する事で活動意欲へと繋げられるよう心掛けてている。(調理の下準備、畑仕事、工作、カラオケ)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事のドライブ、産業祭への参加だけでなく天気の良い日に荘外へ散策へ出掛け気分転換を図っている。家族に参加して頂き一緒にドライブに行く支援を行った。月2回近所のスーパーへ買い物に行き、帰りに自宅の様子を見てきている。併設の特養での行事に参加している。	外出は気分転換や五感の刺激としてとらえ、天候や体調に合わせて周辺の散歩や近くのスーパーまで買い物に出かけている。家族の参加を得て一緒にドライブも行った。隣接する施設の行事に参加したり、個々に応じた外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の現金は管理していないが、ドライブ等出かけた際は買い物が出る体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、支援し話して頂いている。遠方の兄弟より定期的にはがきを頂かれる方に、はがきの裏面のみ書いて頂き、住所を職員が記入し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作る為に玄関、居室に花を飾ったり、カレンダーを貼っている。季節を感じて頂ける様壁飾りを季節ごとに作っている。居室は本人の家であるという感覚を持ってもらえる様、トイレ掃除の際等入室の際には必ず一言声をかけて入る様にしている。	利用者が一日をほとんど過ごすリビングは、日当たりもよく明るい。対面式キッチンから調理の様子がわかり、五感で生活感を味わうことができる。ソファが配置され、利用者がゆっくりくつろげる配慮がなされている。また加湿空気清浄機が設置され、室内環境も整っている。トイレ、浴室も嫌な臭気もなく、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はホールで過ごされる事が多いが、昼食後は思い思いに居室で休んだり、ソファで横になる等自由に過ごされている。時には10号室前等で気の合った方と話をしながら外を眺め気分転換を図られている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は同じ作りだがハンガーに自分で洋服を掛けたり好みの服に着替えたりされている。タンスの上に家族写真や花、手芸品を飾られ、壁には誕生日カードを飾る等自分の部屋と認識して頂ける様にしている。	居室は馴染んだ品物や使い慣れた物の持ち込みの制限はなく、居心地よく安心して生活できるよう支援している。備品として設置されている整理筆筒の上には、家族の写真などが飾られている。居室にはトイレがあり、手指乾燥器が設置されている。希望があれば家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動して頂ける様見守り、声掛け、付き添い等最善の配慮をしながら、それぞれが出来る事を援助し、歩行訓練や立位訓練を行い、状態の維持に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない